

- MONTHLY REPORT -

ちゅうぎん日本大型株アクティブファンド  
(愛称:未来のゆめ)

Chugin Asset Management

追加型投信/国内/株式



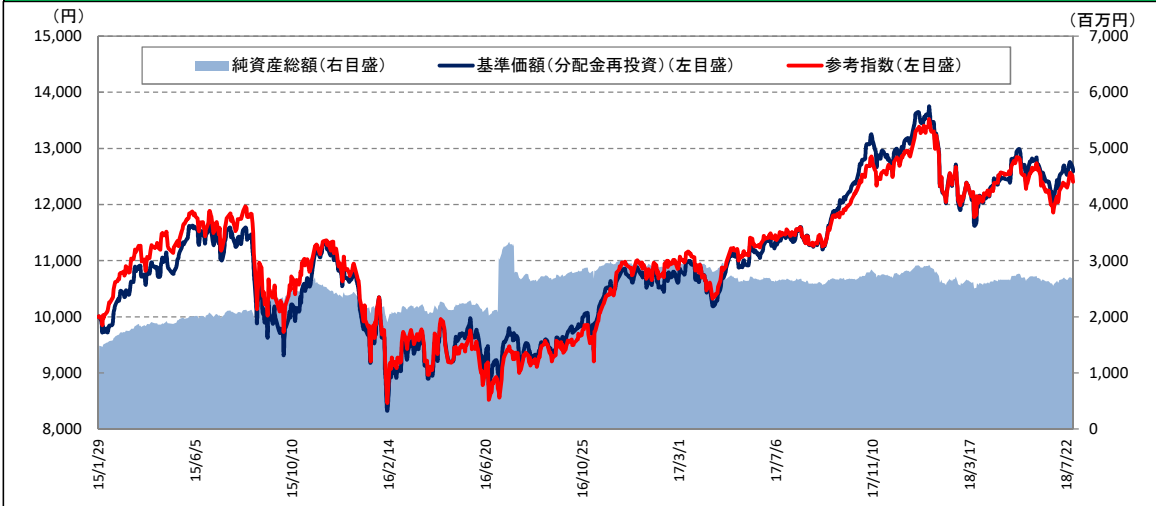
運用実績

設定日・決算日・信託期間	
設定日	2015年1月30日
決算日	1月29日(休業日の場合は翌営業日)
信託期間	2025年1月29日

基準価額・解約価額・純資産総額	
基準価額(分配金控除後)	12,393 円
解約価額	12,356 円
純資産総額	2,666 百万円

※基準価額および解約価額は1万円当たりの価額で表示しております。

基準価額および純資産総額の推移



基準価額の騰落率						
	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
当ファンド	1.5%	1.0%	-3.9%	10.8%	10.4%	25.9%
参考指数	1.3%	-1.3%	-4.5%	8.3%	5.7%	24.0%

資産構成	
株式実質組入	97.2%
現物等	97.2%
先物等	0.0%
コール・ローン、その他	2.8%
組入銘柄数	34

※マザーファンドの状況を比例配分して反映しております。

分配金実績(税引前)						
決算年月	2016年1月	2017年1月	2018年1月	—	—	—
分配金	0円	50円	150円	—	—	—

※上記のグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※基準価額の騰落率およびグラフのデータは、当ファンドの信託報酬(年率1.25%(税抜))控除後の価額を用い、決算時に収益分配があった場合にその分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。  
 ※参考指数は、TOPIXです。TOPIXに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。  
 ※参考指数は、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。  
 ※グラフの参考指数は設定日の前営業日を10,000として指数化しています。  
 ※分配金実績の分配金は、1万円当たりの実績です。分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、分配金支払いにより純資産が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。  
 ※資産構成は、対純資産総額により算出しております。

株式組入上位10銘柄および組入上位10業種

銘柄名	業種	市場	組入比率
1 日本電産	電気機器	東証一部	6.5%
2 ダイキン工業	機械	東証一部	5.5%
3 ヤマハ発動機	輸送用機器	東証一部	4.1%
4 TDK	電気機器	東証一部	4.0%
5 信越化学工業	化学	東証一部	3.9%
6 リクルートホールディングス	サービス業	東証一部	3.8%
7 シスメックス	電気機器	東証一部	3.5%
8 島津製作所	精密機器	東証一部	3.4%
9 デンソー	輸送用機器	東証一部	3.3%
10 中外製薬	医薬品	東証一部	3.2%
合計			41.3%

業種	組入比率
1 電気機器	23.8%
2 輸送用機器	14.2%
3 化学	11.5%
4 機械	7.8%
5 精密機器	6.4%
6 サービス業	4.9%
7 建設業	4.7%
8 医薬品	4.6%
9 ガラス・土石製品	3.1%
10 その他製品	3.1%
合計	84.1%

※株式組入上位10銘柄および組入上位10業種の各比率は、対純資産総額により算出しております。  
 ※株式組入上位10銘柄および組入上位10業種には、マザーファンドの状況を比例配分して反映しております。

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

**- MONTHLY REPORT -**

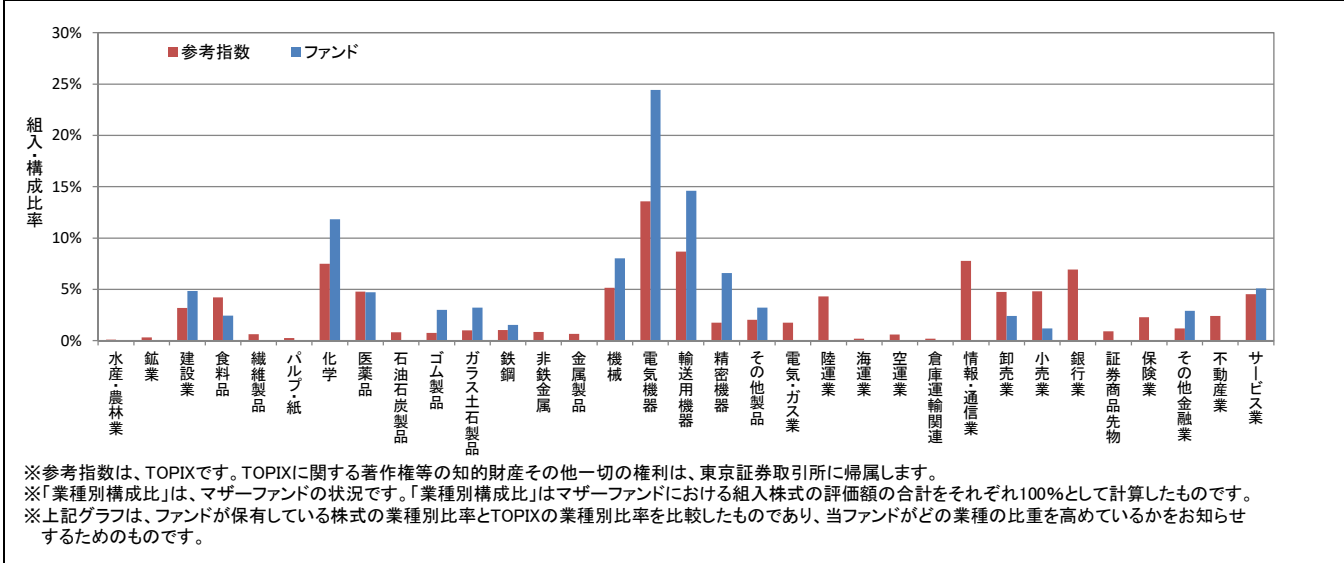
Chugin Asset Management

**ちゅうぎん日本大型株アクティブファンド**  
(愛称:未来のゆめ)

追加型投信 / 国内 / 株式



**ポートフォリオの業種別構成**



**ファンドマネージャーの見方**


2018年8月の国内株式市場は、下値を固めながら上値を試す展開を予想します。  
 7月は、米中間の貿易紛争激化への警戒感から月初に大きく売られる局面が見られましたが、月央以降は、その警戒感が和らいだことに加え、米国経済の好調ぶりを受けて、株価が上昇しました。引き続き、米中での保護政策が強化され、世界経済の勢いが鈍化する懸念はくすぶっていますが、世界経済や企業業績については堅調に推移しています。今後は、通商問題の更なる浮上で揺さぶられる可能性もありますが、今年度の業績予想を織り込む形で、下値を固めながら上値を試す展開を予想しています。  
 中長期的な視点から見ると、2018年度の企業業績(経常利益ベース)は、伸びが鈍化するものの引き続き増益が見込まれており、2013年度から続いている企業業績の伸びは継続するものと考えています。そのような中、現状の利益水準に甘んじることなく、将来の成長に向けた取り組みを行っている企業を評価したいと考えています。国内企業の利益水準は高水準で推移し、更に稼ぐ力が高まっているなど、国内株式は魅力的と考えています。

**運用状況**

当ファンドの7月の運用結果は対TOPIX設定来で+1.9%のアウトパフォーマンス、7月単月で+0.2%のアウトパフォーマンスとなりました。信越化学工業、ヤマハ発動機、TDKなどのパフォーマンスがプラス寄与しました。  
 売買においては、戸建てニーズ減退懸念で建設業関連、米中貿易摩擦懸念で精密機器関連の銘柄を売却する一方で、医薬品やサービス業関連の銘柄を購入しました。  
 具体的には、HOYAや島津製作所などを一部売却、大和ハウス工業を全売却する一方で、エムスリーを新規購入し、中外製薬や大塚HDなどを追加購入しました。

**今後の運用方針 (以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)**

日本を取り巻く世界の環境は大きく変化しております。一つ目は、世界の経済成長における環境問題の解決がより求められることで、二つ目は、ライフシフトと言われる生活スタイルの変化です。  
 これらの変化は、国内外問わず企業の事業活動には負荷がかかる事が想定されています。このような中、かねてから省エネやシニアニーズに取り組んできた国内企業は、これから訪れるであろう課題の解決では、フロントランナーと言えます。このような未来につながる課題解決企業を見つけて、フォーカスしたいと考えています。  
 当ファンドでは、企業取材などの情報収集を行い、①事業領域の選択と集中を行っている企業、②M&Aで海外市場を取込む企業に加え、③世界の問題解決を期待される企業に期待し、ポートフォリオを構築します。これらの企業は、海外企業との激しい競争や円高局面での為替影響も見込まれますが、中長期的には業績拡大が見込まれるものと考えております。

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。  **中銀アセットマネジメント**

- MONTHLY REPORT -

ちゅうぎん日本大型株アクティブファンド  
(愛称:未来のゆめ)

Chugin Asset Management

追加型投信/国内/株式

## 株式組入上位10銘柄(2018年7月31日現在)

1	<b>日本電産</b>	精密小型モータで世界首位、小型から大型までの各種モータ、さらには機器装置や電子光学部品等を製造。同社が製造する部品は、スマートフォン等IT機器や家電、自動ドアなど業務用機器、自動車など身の回りのあらゆるものに使用されている。産業用ではロボティクス分野においてモータ主体にビジネスチャンスが拡大中。
	銘柄コード: 6594	
	業種: 電気機器	
2	<b>ダイキン工業</b>	エアコン世界首位、国内は業務用で圧倒的シェア。主力の空調事業は国内外で着実に推移し、特に中国で強さを発揮している。また、中間層の拡大に伴い需要が拡大するアジアや、好調な北米での成長力に期待。冷房専用インバーター機等の新製品投入や差別化戦略による売上高成長力が最大の強み。
	銘柄コード: 6367	
	業種: 機械	
3	<b>ヤマハ発動機</b>	楽器のヤマハから発祥し自動二輪で独立、世界大手。エンジン技術等を活用した多角化で、ボート事業で国内シェア1位、船外機・ウォータージェット事業で世界シェア1位。自動二輪ではアセアン等優先市場を見極め、地域に合わせて商品を最適化したグローバルモデルの拡大に期待。
	銘柄コード: 7272	
	業種: 輸送用機器	
4	<b>TDK</b>	磁気を応用した電子材料をはじめ、多岐にわたる電子部品を手掛ける。素材、プロセス、評価、生産、デバイス・モジュール技術という5つの基盤技術を基にした製造工程が特長。磁性材料であるフェライトの工業生産を世界に先駆けて実施するなど技術力が高い。
	銘柄コード: 6762	
	業種: 電気機器	
5	<b>信越化学工業</b>	信濃川の水力発電と新潟県の石灰石から化学肥料を製造するため、大正15年に発足した国内大手の素材メーカー。塩ビやシリコンなど世界シェアの高い素材を多く擁している。近年は、半導体スーパーサイクルと言われる旺盛な需要の中で、世界トップシェアの半導体シリコンウエハーの売上増加と採算性の改善に期待。
	銘柄コード: 4063	
	業種: 化学	
6	<b>リクルートホールディングス</b>	大学生向け求人広告事業から創業。「HOT PEPPER」「SUUMO」などの販促募集、「リクナビ」などの人材募集、「リクルートスタッフィング」などの人材派遣の3つの主力事業で国内No.1のプレゼンスを獲得。M&Aに積極的に取り組み、海外人材募集への注力によりグローバルでの事業ポートフォリオの拡大を実現。
	銘柄コード: 6098	
	業種: サービス業	
7	<b>シスメックス</b>	検体検査機器の大手。血液成分測定装置で世界シェアトップ。血液検査、免疫血清検査、尿検査、生化学検査等に必要機器・試薬や、これらに関連するソフトウェアなどの研究開発から製造・販売・サポート&サービスまでを手がける。世界190カ国以上の顧客に、検査機器や各種検査に必要な試薬を幅広く提供。
	銘柄コード: 6869	
	業種: 電気機器	
8	<b>島津製作所</b>	日本初の医療用X線装置を開発したことで知られる京都の企業。製造している液体クロマトグラフは液体の成分を分析する機器で、医薬品の開発などで活躍。現在、強みである分析・計測技術を活かし、がんや認知障害の早期検査を開発中。国内のみならず世界の人々の健康に寄与する取組みが期待されている。
	銘柄コード: 7701	
	業種: 精密機器	
9	<b>デンソー</b>	先進的な自動車システム・製品を提供する、グローバルな自動車部品メーカー。地球環境の維持と安心・安全に暮らせる社会の実現に向けた事業活動を展開。今般、トヨタ自動車の電子部品事業の移管を受けるなど、トヨタグループにおける電動化や自動運転の変革に対応できるように取組んでいる。
	銘柄コード: 6902	
	業種: 輸送用機器	
10	<b>中外製薬</b>	世界有数の製薬企業であるスイスのロシュ社と戦略的提携を行っている医薬品メーカー。この戦略的提携によって、強みである開発の集中と、スムーズなグローバル販売を実現。近時開発された血友病薬は、既存薬に比べて投与回数が少なく済むなどの特長を有しており、グローバルで注目されている。
	銘柄コード: 4519	
	業種: 医薬品	

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

中銀アセットマネジメント





